第 2013-13 号

恵みと真理のニュース

2013 年 5 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　全ての家族を救ってくださり主の中で万時が益となるように導いてくださって感謝します。

私は儒教思想と伝統をとても注視する家庭の8人兄弟の長男で生まれ育ちました。1982年に結婚して子供3人を産んで、1991年職場に沿ってカチョンに引越ししました。妻が儒教の家庭で一番の嫁として暮らすことが大変な時でした。ある日妻は私に“あなた、私教会に通いたいけどどう？と聞かれました。儒教的な家を誇らかに思ってる家庭で一番の嫁が教会に行くと言ったら父と母から叱られると思ったからです。妻、母、嫁として本分の責任を尽くして忍耐する妻がかわいそうで“心配しなくて教会に通いなさい。親は私に任せて！言いました。その代わり私は長男として家の祭司をあげるから私には絶対に教会に行くように進めないと念を押しました。
そうする間、私たちを熱心に伝道した首区域長の誘いで1992年妻が先に子供を連れて恵みと真理の教会のカチョン聖殿で信仰生活を始めました。私は週末ごとに家族を車で乗せて教会まで行って礼拝がおまるまで待ちました。聖徒の仲で家族みんなが礼拝する姿がよく見えた時もあったが、また、妻がイエス様を必ず信じる理由を言いながら私と親が救われるように切に祈っていると言っても私は聞くふりもしなかったです。
1996年ブンダンに引越ししました。教会に行くのを親が強く反対して妻はお盆と正月が近づくと不安になり親が家に来る前教会のカレンダーをはずして親が帰ったらつけることを繰り返しました。そんなに大変な信仰生活をしながらも親孝行する妻と教会に通いながら誠実で礼儀正しく育つ子供の姿を見ながら私の心も少しずつ心が開きました。
その中で1998年ある日おかしい夢を見ました。暗いところに急に明るい光が開き主が現れ私の名前を呼びながら私の手を握ってくださり立ち上げる夢でした。
ヨリコ道でイエス様が自分の名前を呼んでくださったときザアカイはどんな思いだったでしょう。私は驚いて夢からさめて恐れる心で妻にこれからすぐ教会に通うとイエス様を信じると言いました。すると妻と子供たちは喜びながら主に賛美を捧げました。その次の週から礼拝に参加して罪を悔い改め主を受け入れました。
礼拝に休まずに当会牧師のメッセージ、神様の御言葉を通して宇宙、歴史、価値観、生死死後の世界の考えることが変わりその通り信じ従順するように頑張りました。
日々恵みを受けて神様の愛を感じ教会の聖徒を捧げる信仰に成長しました。世から得られない喜びを知り神様の導きを感じながらいつも感謝するようになりました。パンギョ聖殿が新築され奉仕する時間が多くなってもっと感謝の気持ちで献身しながら神様に栄光を捧げました。

〈次号に続く〉

［信仰コラム］　一番哀れな隣人

″… この貧しい人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。そして黄泉にいて苦しみながら、…″(ルカ16:19~24)

どこの町に金持ちが住みました。彼は高価な服を着て毎日宴を催す、豪勢な生活をしました。このお金持ちの家の門前に’ラザロ’という名前の乞食がいました。ある日、ラザロが死にました。多分彼の遺体は薦に包まれて共同墓地の片隅に葬られたのです。長くは続かず、金持ちも死にました。彼の葬儀は華やかで盛大に行われました。人たちはラザロをあわれみ、金持ちは羨ましがられましたところが人々の見解が正しくないという事実が死の向こう側世界まで続く話の中で知れます。ラザロは死の瞬間にその魂が天使たちといっしょに楽園に入りました。しかし、金持ちの魂は地獄に入りました。一般的に考えればラザロは人たちが呼ばれる哀れな隣人の典型です。しかし、この物語の顛末を見ると、実状は金持ちが一番哀れな隣人です。

第一、金持ちはその魂が飢えている状態にあったために一番哀れな隣人です。人は動作と感覚の機関としての肉体だけでなく、魂を持った存在で生きています。肉体は食べ物を食べることで生命を持ちこたえるて満足を感じるが、人はこれだけで満足することができません。精神的な欲求を感じなかったり、霊的な飢えのうち、ただ生きている人は一番哀れな隣人です。

第二、金持ちは精神的にはげる状態にあったために一番哀れな隣人です。私たちの魂は意義の服を着なければなりません。意義の着物を着ずには誰でも神様の前に進むことができません。この服は神様が罪人たちのために予備た服です。、イエス・キリストを信じない人は精神的に裸の状態にある一番哀れな人です。

第三、本文に出てくるお金持ちが一番哀れな理由は精神的に貧しい状態にあったからです。彼は精神的にひどい貧乏人でした。彼には霊的な知識がありませんでした。創造主を知っていなかったため、宇宙万物の根源と終末について無知だったです。人間の魂が皮と罪で死んだ状態にあることを知りませんでした。人類の歴史が神様の主権と摂理の中で進行されることを知りませんでした。、イエス・キリストがくれた喜びと平安が何かを知っていません。聖徒たちに取り組むキリストの能力を知ることができなかったです。彼には本当の人生の意味と目的がまだなく、空に積んでおいた宝物がありませんでした。世の中と飾られており、うわべはりゅうとしてか霊的なものを持っていられず、中身はがら空きている人たちが一番哀れな隣人です。

第四、金持ちは霊的な孤児だったからに一番哀れな隣人です。彼の周りに人たちがいつも多かったが、彼は精神的に孤児同然でした。聖徒は死の席でも寂しくないです。父なる神の愛される子供だからに天使たちが来て連れて来て天国に導きます。しかし、金持ちは死の席でさびしく地獄に入りました。

五つ、金持ちは永遠の安息所がなかったために一番哀れな隣人です。この世界はただ旅に過ぎません。聖徒は神様が予備た永遠の家に向かって日々すすみます。。。だから、キリスト人は、いかなる場合にも哀れな隣人がありません。一方、不信者はまるで外国で旅行する間に一流ホテルで宿泊して定めた日に本国に帰ると犯罪者として逮捕され刑務所に負う人と同じです。

ラザロと金持ちに関する話は病気にかかって貧しく生きてこその楽園に行くことができるという内容がありません。乞食ラザロと金持ちの劇的な対照を通じて天国の重要性を示すメッセージを宣言しています。聖徒皆さんは肉と生活が苦難と欠乏に直面した人を助けてくれることを努めていくだけでなく、精神的にかわいそうな隣人に深い関心を持って福音を伝えてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は"あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい"(テサロニケ１の5:22)の言葉をよく見ます。取るものと切り捨てるものを分別する知恵とともに取るのは取ってしまうと切り捨てしまう大胆な実践力が必要です。

第一に、"あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい"というのはここでいう悪が何かをよく見ます。

聖書には悪の起源に関する合理的な説明をしていません。ただ人間が行うすべての悪の背後に活動する霊的存在に関して明らかに啓示しました。その霊的存在をサタンあるいは悪魔と呼んでいます。ヨハネ１の5章19節に" 全世界は悪しき者の配下にあることを知っている。 エペソ6章12節に"私たちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。"しました。世界中が悪い者の中にいるわけが創世記3章に啓示されています。人類の祖先がサタンにそそのかされ、善悪を知る木の実を取って食べました。善悪を知る木の実を食べないとした神様の言葉に不従順したため、世界中は邪悪な存在であるサタンの支配下にあるようになりました。
善悪を知る木の実を取って食べた罪を犯した以後から人は自分が善悪を判断する主体になりました。これが、人本主義です。堕落したアダムの子孫たちは、人本主義で行動しました。カインは神様に祭祀する時自分が好きな方式としていました。弟アベルは神様が啓示された通りに将来いらっしゃる救世主を信じる信仰で致しました、人本主義と神本主義を説明してくれる事件です。神様がアベルとその供え物は喜んで受け取りましたがカインとその供え物は受けずになりました。すると人本主義者のカインは、ひどく腹を出し、結局、自分の弟アベルを殺す殺人まで犯しました。善悪の判別基準を神様におくことを拒否した人生は罪悪に満ちた世の中を作りました。
ノアの時に至って神様が世の中を洪水で滅しました。ただ、神様の言葉を善悪の判断基準にしたノアと彼の家族は箱舟によって救いを得ました。ノアの洪水以来、人たちが繁盛し始めたが、ノアの神本主義の信仰を見習うべき者が多くありませんでした。人たちが東方に移してシナル平地を発見し、そこに定着することを決定して城と塔を建築し始めました。彼らがお互いに言うのを"さあ、城と塔を築いていただきを天にとどくようにして私たちの名前を出してまた地面に散らばったことを免れると。"しました。彼らは徹底的に、人本主義でした。"私たちの名前をつけよう。"という旗の下に集まって協力しました。神様が彼らの言語を混雑させてお互いに分からないようにしました。そうしたら言葉が通じる人々が地に散ることになりました。
堕落したアダムの子孫たちは、人本主義の傾向を脱しなかったです。今日の人々は文明の発展を誇りに思います。このような発展が全面的に人間の知恵と力になったものと考えます。神様を形式的に礼拝して世の事と楽しみにはまって生きていきます。しかし、その終局はいつも悲劇です。イエス様がおっしゃるのを"ノアの時になったのと一緒に人子の時とも同じそうにノアが箱舟に入った日まで人たちが食べて飲んで結婚、嫁に行くと洪水が起こって、私たちをすべて滅びており、またロッドの時と同じだろう人たちが食べて飲んで買って売って植えて家を建ててこのソドムとゴモラから出た日に天からわずか硫黄が雨の降るようにして私たちを滅したのだ人子の現れる日もそするだろう"(ルカ17:26~30)しました。
アダムの堕落で人が善悪を判別する基準となる瞬間から、人本主義は人間存在の中に深く根差しになりました。神はこうした人間の実状を比喩におっしゃいました。ある家の主人がいた。彼が葡萄園を作り、その周りに囲いを設け、その中に葡萄汁枠組みを掘ってやぐらを立ててそれらを、農夫たちに貸して旅に出かけた。実結ぶ時が近くなると、彼が自分の収穫を受けようと僕を、農夫たちに送るから農夫たちが彼の僕たちをつかまえて、ひとりを袋だたきにし、ひとりを殺し、もうひとりを石で打ち殺したまた別に、前よりも多くの僕たちを送ったが、彼らをも同じようにあしらった。 しかし、最後に、わたしの子は敬ってくれるだろうと思って、主人はその子を彼らの所につかわした。
すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう(マタイ21:33~39)しました。大多数の人は凶悪な農夫と一緒に暮らしています。神様より自分を前面に出して自分の欲を満たすために生きていきます。これらの人々には善悪の判別基準が自分にとって神様にいません.アダムの堕落から人が善悪を判別する基準となる瞬間から、人本主義は人間存在の中に深く根差しになりました。神はこうした人間の実状を比喩におっしゃいました。これらの人々には善悪の判別基準が自分として神様にいません。
善悪の判別基準が人にあることそれ自体が悪です。善悪の判別基準が神様にいる必要があります。神様の言葉を善悪を見分ける基準にしなければなりません。悪に対する定義と概念がはっきりしないまた正しいないと"悪はすべての形でも捨てるべき"のことをちゃんと実行できなくなります。聖書が私たちに教える善悪の判断基準は、神様のみ旨に適うじゃないか、神様の言葉にふさわしいでもないかにあります。

第二に、"悪のすべての形"についてよく見ます。

神様の言葉を歪曲されるようにする者たちの行為を弁護したり助けることは、"悪のすべての形"に該当されます。異端に属する者たちと一緒に宗教的行事をして彼らの宗教行事に参加することはすべて"悪の形"です。"私は宗教多元主義、宗教混合主義、宗教一致主義を排撃します。"と述べながら、一方では、宗教多元主義者、宗教混合主義者、宗教一致主義者たちの団体のイベントに参加するのは"悪の形"です。
イエスキリストに対する信仰には、中立を入れることはできません。これは二重行為です。二重的行為も"悪の形"です。宗教多元主義の思想が正しいと確信して言う人は可憐とはいえ悪い人ではありません。一方では福音的信仰を標榜し、一方では多元主義信仰を標榜する機会主義的な行動をする人は悪い人です。神様の言葉を自己本位に解釈して行動することも、"悪の形"です。イスラエルの王サウルは預言者サムエルが伝えてくれた神様の命令を遂行する過程で命令遂行しないで適当に処理したことによって神様に捨てられになりました。預言者サムエルはサウル王に、神様の命令を伝達しました。アマルレク人たちを攻撃して彼らのすべてを滅びなさいしました。動物なども残さず全部殺すようにしました。その理由は、かつてイスラエルの民がエジプトを離れて行進する時アメルレク人たちがイスラエルを攻撃したからです。神様の民を賊する者を神様が必ず懲罰とのことを見せようとしたものです。サウル王は神様の命令どおりにしなくて自分の思ったとおりにしました。アマルレク人の王アガクを捕らえて殺していやしました。そして、羊と牛の良いものと子羊は残しておきました。サウル王は戦争をしてあるというよりは、神様の審判の代行者として働いているという事実を忘却しました。サウル王はアマルレクを勝った後、ガルメルで自分の為に記念碑を建てました。預言者サムエルはサウルに行くのにサウルが彼にいうのを"願わくはあなたはエホバに福をお受けくださいませ私がエホバの命令をおこないました。"主はあなたに使命を授け、つかわして言われた、『行って、罪びとなるアマレクびとを滅ぼし尽せ。彼らを皆殺しにするまで戦え』。それであるのに、どうしてあなたは主の声に聞き従わないで、ぶんどり物にとびかかり、主の目の前に悪をおこなったのですか、サムエルは言った、「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。そむくことは占いの罪に等しく、強情は偶像礼拝の罪に等しいからである。あなたが主のことばを捨てたので、主もまたあなたを捨てて、王の位から退けられた」"(サムエル記上15:18、19、22、23).
神様の言葉を自分の都合に適当に添削することは、人本主義に行うものです。これを聖書は悪と規定しました。神様と神様の言葉を分離して考えることは許されません。神様の言葉を軽んじて思うまた自分の思ったとおりに行うことを聖書は悪と規定しました。神様の言葉を歪曲されように教えている者を助ける行為と彼らの宗教行事に参加することが悪の形です。神様の言葉を変えて信じて教えるのが悪の形です。"悪は当然に排撃する必要があります。悪はすべての形でも捨てなければなりません。"

今日まで4か月間、17週にわたって デサルロニヶ１書5章16節で22節までの言葉を詳しく調べました。１．いつも喜んでいなさい。２．絶えず祈りなさい。３．すべての事について、感謝しなさい。４．御霊を消してはいけない。５．預言を軽んじてはならない。６．すべてのものを識別して、良いものを守り、７．あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。これら七つの勧の以上です。
神様の命令です。キリスト人の幸せと勝利した人生の秘訣であり原理です聖徒の皆さんはこの七つのすべての命令を守って行う生活をしたいとお願いします。